

# 20 佐伯市文化財保存活用地域計画【大分県】

【計画期間】 令和6～9年度（4年間）

【面積】 903.14km<sup>2</sup>

【人口】 約6.7万人



## 歴史文化の特徴

### 1. 海のさいき

本市の海岸部は、リアス海岸特有の突出した半島と湾が連続している。気候は温暖多雨で海洋性の環境を反映した自然林が見られ、海中にはサンゴ礁が広がる。豊後水道を介して四国や瀬戸内海を通じた近畿との交流によって、外へと開かれた地域であった。江戸時代の佐伯藩は漁場保全に通じる施策を採り、豊富な海産資源や海上交通網の税収は藩の財政を支えた。大正時代には瀬戸内海への玄関口として砲台が築かれ、昭和期には海軍航空隊が開隊し市街地発展のきっかけとなった。

### 2. 山のさいき

本市の中部から西部を占める祖母・傾山系に連なる山々には、険しい地形のなか、石灰岩層では鍾乳洞が形成され、凝灰岩層は豊富な石造物の素材となった。水田耕作には不向きであったものの、森林資源を生かして製茶や炭焼き、製材、製紙が発達し、山間部を代表する商品となった。また、本市南西部は鉱物資源に恵まれ、鉱山経営や窯業も行われた。豊後と日向を結ぶ日向道は、文化的な往来だけでなく、戦国時代や明治時代初期の西南戦争では激戦の舞台ともなった。

### 3. 人が集い活躍するさいき

祖母・傾山系に源を發し豊後水道に注ぐ番匠川とその水系は、河口部に沖積地を形成した。船を利用した重要な交通路でもあり、下流域に海・山の資源が集約され、人々が集まり市街地へと発展した。平安時代から戦国時代に水軍を擁して交通を支配した佐伯氏の根拠地となり、近世には佐伯藩毛利家の城と城下町が建設された。水産業収入を軸とした高い経済力を背景に、佐伯文庫の収集、藩校の設立によって、多くの優れた思想家や学者を全国へと送り出した。

### 4. 文化がつながり交わるさいき

本市の歴史は、豊後水道を介した海上交通路、南北に通る陸上交通路の日向道、海岸部と山間部をつなぐ番匠川水系を利用した水上交通路が支えた。近畿の影響を受けた石造物や仏像が造られ、瀬戸内から石材加工や石垣、造船技術の導入が図られた。山間部の農林産物は番匠川水系を通じて集約され、瀬戸内海を経て近畿へ移出された。産物の輸送や出稼ぎによってさまざまな地域との交流が生まれ、文化や芸能を伝えた。

## 指定等文化財件数一覧

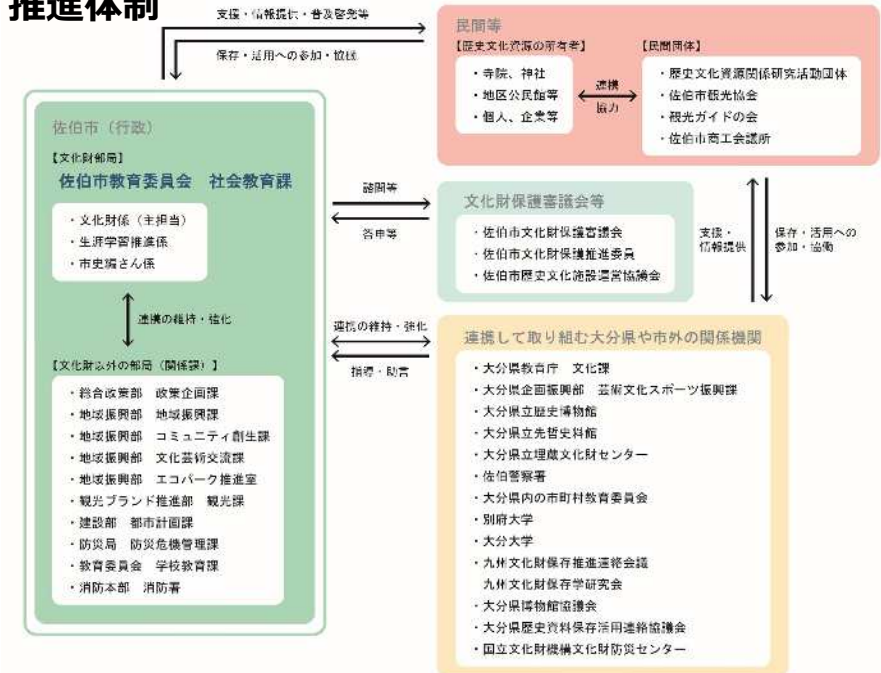
大分類	小分類	国			県		市	合計	
		指定等	選択	登録	指定	選択	指定		
有形文化財	建造物	0	-	4	5	-	79	88	
	美術工芸品	絵画	0	-	0	0	-	2	2
		彫刻	0	-	0	1	-	21	22
		工芸品	0	-	0	1	-	2	3
		古文書	0	-	0	0	-	22	22
		書跡	0	-	0	0	-	2	2
		典籍	0	-	0	0	-	0	0
		考古資料	0	-	0	1	-	3	4
歴史資料	0	-	0	0	-	6	6		
無形文化財		0	0	0	0	-	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	1	-	0	1	-	11	13	
	無形の民俗文化財	0	0	0	7	1	14	22	
記念物	遺跡（史跡）	1	-	0	3	-	24	28	
	名勝地（名勝）	0	-	0	1	-	7	8	
	動物・植物・地質鉱物（天然記念物）	4	-	0	18	-	26	48	
文化的景観		0	-	-	-	-	-	0	
伝統的建造物群		0	-	-	-	-	-	0	
合計		6	0	4	38	1	219	268	

指定等文化財は、268件

未指定の歴史文化資源は、5,161件把握

※本計画では法律上の文化財に加え、その周囲にあって市民のアイデンティティを構成する「もの」、「こと」を「歴史文化資源」とした。

## 推進体制



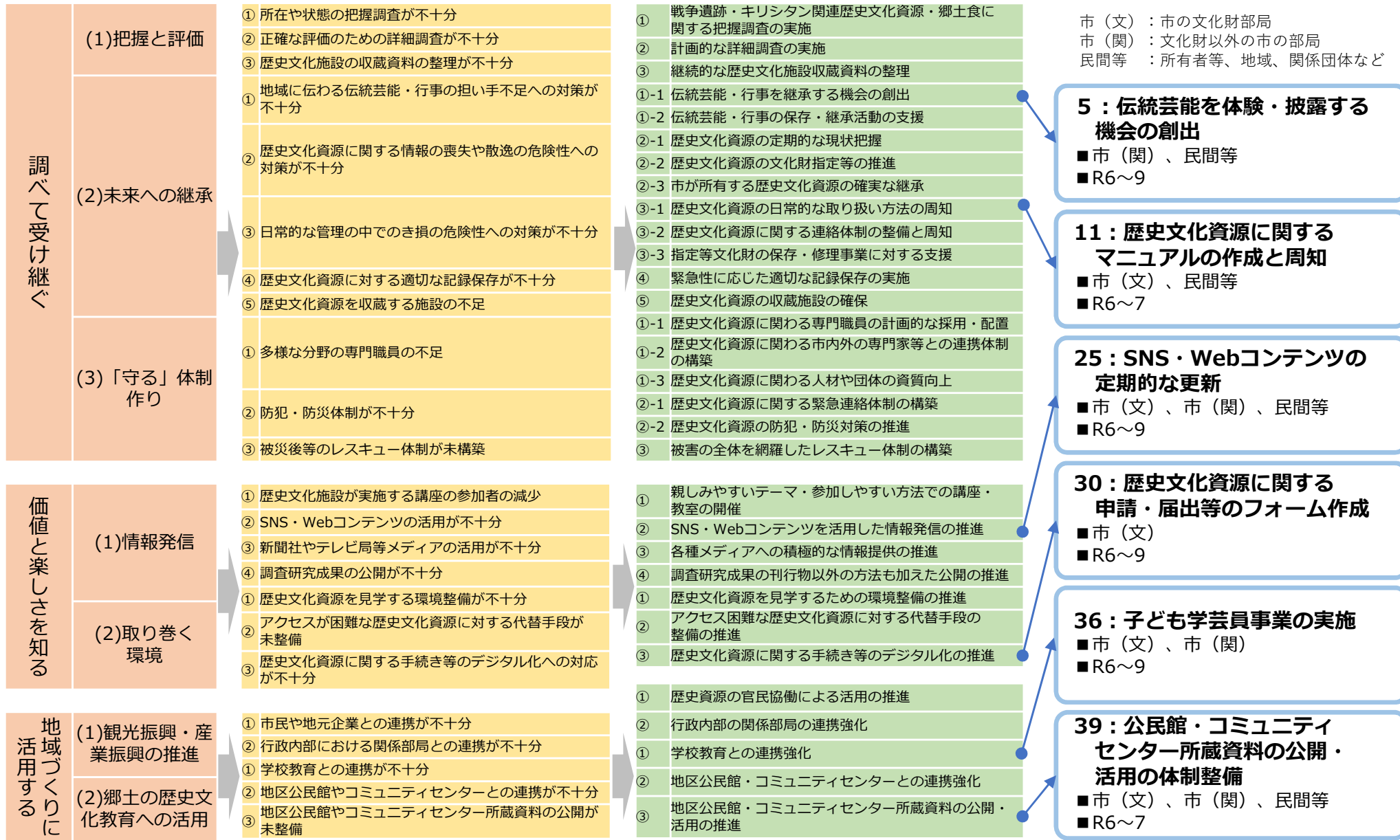
# 【将来像】市民だれもが佐伯市の歴史文化に誇りを持ち、語ることが出来る

## 将来像実現に向けての視点

## 課題

## 方針

## 措置の例



歴史文化の特徴	関連歴史文化資源群	構成歴史文化資源
海の さいき	①豊後水道が育む自然と伝統	蒲江の漁撈用具・鯨の墓・シシ垣・暁嵐の瀧・豊後二見ヶ浦・最勝海浦のウバメガシ林・沖黒島の自然林・大宮八幡神社の自然林 (ほか)  蒲江の漁撈用具 [国指定]
	②地震・津波・水害の記憶と語り継がれる教訓	御城下分見明細図絵・成松文書・佐伯城下町(馬場の土手)・龍神池 (ほか)  津波に襲われた米水津地区浦代浦
	③豊予海峡の要衝 軍都佐伯	旧佐伯海軍航空隊掩体壕・丹賀砲台跡・仙崎砲台跡・鶴御崎砲台跡・濃霞山戦争遺跡 (ほか)  佐伯市平和祈念館 やわらぎ
山の さいき	④祖母・傾山系が織りなす自然と大地の恵み	大師庵宝塔・宇藤木橋・磨崖石塔・木浦千人間歩・藤河内溪谷・銚子八景・カモシカ・小半鍾乳洞・鷹鳥屋山の自然林・本匠の埋没樹木 (ほか)  磨崖石塔 [県指定]
	⑤大野郡宇目郷と日向道	切支丹柄鏡・墨つけ祭り・宇目の唄げんか・重岡キリシタン墓・木浦千人間歩・朝日嶽城跡・西南戦役古戦場陸地峠・日向道 (ほか)  西南戦争時の政府軍・西郷郡の動き
人が集い活躍する さいき	⑥豊後南部の雄 佐伯氏の栄華	十三重塔・常楽寺鰐口・盛嶽文書・御手洗家文書・柵牟礼実録・千束楽・柵牟礼城跡・因尾砦跡・小田山城跡 (ほか)  盛嶽文書 [市指定]
	⑦佐伯の殿様浦でもつ 佐伯藩と毛利家	佐伯城三ノ丸櫓門・赤木村大庄屋の御用日記・温故知新録・佐伯文庫・毛利家資料・佐伯藩政史料・佐伯城跡・佐伯城下町 (ほか)  佐伯城三ノ丸櫓門 [県指定]
	⑧初代佐伯藩主 毛利高政	毛利高政書状・温故知新録・毛利家資料・佐伯藩政史料・佐伯城跡 (ほか)  佐伯城跡 [国指定]
	⑨文教のまち 佐伯と先哲	小林九左衛門の廟・金馬橋碑・矢野龍溪自筆書幅・佐伯文庫・佐藤蔵太郎旧蔵資料・中島子玉墓 (ほか)  矢野龍溪自筆書幅 [市指定]
文化がつながり 交わる さいき	⑩多彩な芸能・行事の多様な ルーツ	神踊・杖踊・佐伯神楽・風流・杖踊・千束楽・葛原神楽・堅田踊り・墨つけ祭り・重岡岩戸神楽・釘戸白熊・疫神斎 (ほか)  神踊・杖踊 [県指定]



# 【関連歴史文化資源群⑦ 佐伯の殿様浦でもつ 佐伯藩と毛利家】

## ストーリーの概要

江戸時代は本市域の大半が佐伯藩2万石に属し、一貫して毛利家が統治した。比較的安定した藩政の結果、豊かで質の良い歴史文化資源が今日まで残されている。小藩ながら、豊富な海産資源や干鰯に代表される加工品、さらに漁業・海上交通にかかる税収が財政を潤し、石高以上の経済力を持つに至った佐伯藩毛利家は、いつしか「佐伯の殿様浦でもつ」と謳われた。江戸時代中期から末期に至る「佐伯藩政史料」や「温故知新録」は、こうした藩の歴史を間断なくたどることができる。毛利家所用の武具や調度品、古文書などの資料群は「毛利家資料」として伝来し、佐伯藩の成立や歴代藩主の生活をうかがい知ることができる。

初代藩主毛利高政が築城し、藩政の拠点となった「佐伯城」は、中世山城の構造を踏襲した近世城郭として評価される。さらに山城の維持管理に関わる遺構が良く残る。その麓に形成された「佐伯城下町」は、番匠川とその支流を掘と水路として取り込んでいる。城下に設けた船着き場からは番匠川・豊後水道に直接出ることができ、川や海と深く結びついた城下町である。

この他、佐伯藩領内には歴代藩主の事績や藩政に関わる歴史文化資源が、各地の寺社や庄屋家に受け継がれ、毛利家の治世を伝えている。

